

自然観察会

「男井戸川調整池ビオトープと周辺の春の植物たち」のお知らせ

殖蓮地区自然環境を守る会

謹啓

男井戸川調整池ビオトープでは地域の自然景観を再生しつつあり、4月・5月は、美しい花、可憐な花を咲かせる在来植物も多く、連休中が見頃となっております。ぜひビオトープ内をご散策ください。

また昨年と同様、男井戸川調整池ビオトープと周辺の春の植物の観察会を、以下の要領で行います。植物の名前を知ると、親しみがわいて、自然とのふれあいがいっそう楽しくなります。ぜひお越しください。

日時 平成31年4月29日（月）13時30分～16時

会場 殖蓮公民館（第一部）、男井戸川調整池ビオトープ（第二部）

内容

第一部

講習「ビオトープに生育する春の植物の名前と見分け方」

講師 石川真一（群馬大学社会情報学部環境科学研究室教授）

第二部

観察会「男井戸川調整池ビオトープに生育する春の植物」

ご案内 群馬大学社会情報学部環境科学研究室 学生一同



平成29年春に男井戸川調整池ビオトープで生育が確認された、極めて貴重な絶滅危惧種キタミソウは健在です。今年も観察する予定です



男井戸川調整池ビオトープに生育する在来種ホトケノザ。名前の由来（春の七草ではないのです）など、解説します。

男井戸川

殖蓮地区の真中を流れ、下植木町で粕川に合流する1級河川です。

昔は農業用水路（やたっぼり）でしたが、現在は雨水・家庭雑排水の水路であり、大雨時下流道路に水が溢れ、対策工事中です。

調節池

一次治水対策として、平成23年に完成した貯水池です。

大雨時川の水を貯め、一定水量を下流にながすものです。

平時は大部分は地面が出ていて、植物が繁茂しています。

ビオトープ 野生生物の住みかのこと。

その環境・規模にあった種々の生物が生息しています。

色々なビオトープがありますが、ここは群馬大学石川教授の指導により

絶滅危惧類の保護育成・自然環境再生調査を実施、毎年観察会をしています。

生物多様性 人類生存の基盤 保存・利用・共生

種の多様性 生物の種類が多く、固有種が貴重です。

種内の多様性 集団間の違い、集団内の違い

生態系の多様性 森林、川、湿地、干潟、海

外来種と在来種

（群馬大学ブックレット 外来植物の脅威 2008年）

特定外来種（除去） 7種 オオキンケイギク、オオカワジシャ等

要注意外来種（管理） 9種 キシュウスズメノヒエ等

県内危険外来種（注意） 11種 ナガミヒナゲシ、等

絶滅危惧種 地域（国・県）、調査年度によって異なる

（群馬県2012年版レッドデータブック）

絶滅危惧ⅠA類（絶滅の危機に瀕している） アサザ、キタミソウ

準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） コギシギシ、カワジシャ、ミソコウジュ

ミコシガヤ、アゼナルコ

講師 石川真一群馬大学教授

問い合わせ申込み 殖蓮公民館（伊勢崎市上植木本町2760番地） 0270-26-4560
膳福 一 090-5799-0766